

環境報告書

2025



室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

国立大学法人 室蘭工業大学

2026年6月発行

目次

学長あいさつ	．．．．	3
--------	------	---

1 大学概要	．．．．	4
--------	------	---

2 環境に関する基本方針	．．．．	11
--------------	------	----

3 環境マネジメントシステム	．．	12
----------------	----	----

4 環境配慮実施計画	．．．．	13
------------	------	----

5 環境負荷実績	．．．．	15
----------	------	----

6 環境配慮活動	．．．．	19
----------	------	----

7 地域との連携	．．．．	20
----------	------	----

8 関係法令、環境規制への対応	．．．	25
-----------------	-----	----



【報告の対象範囲】

対象範囲: 室蘭工業大学(職員宿舎・明德寮・明凜館・留学生宿舎2は除く)

期間: 2025年4月1日～2026年3月31日

室蘭工業大学は地域に根ざす理工系単科大学として、「北海道の課題解決は、日本の、更には世界の課題の解決につながる」と考えて、研究力の向上及び社会との共創推進のために必要な教育改革・大学改革に取り組んでおります。

本学の理念は「創造的な科学技術で夢をかたちに」ですが、今年度からはこの理念のもとに、「真なる探究心から未来の価値づくりを」、新たなキャッチコピーとして標榜しております。教育研究に携わる教職員の立場だけではなく、学生の立場からも将来への志として、このキャッチコピーが使われると良いなと思うとともに、本学は今後もずっと、社会に対して未来の「価値づくり」をする場でありたいと強く願っております。

さて、近年では世界的にカーボンニュートラルを宣言する国々や企業が増えており、我が国でも2050年までにカーボンニュートラルを達成する方針を表明しました。本学では2024年4月に「国立大学法人室蘭工業大学における地球温暖化対策に関する実施方針2024」を策定し、2030年度までに温室効果ガスの排出を51%削減する目標を定めました。

本学で作成した環境報告書も、これで6年目となります。本学では以前より環境に関する基本方針を定め、地球環境の維持・保全・改善に努めてまいりましたが、この環境報告書をご覧いただき、本学の活動についてのご理解を深めていただけると幸いです。

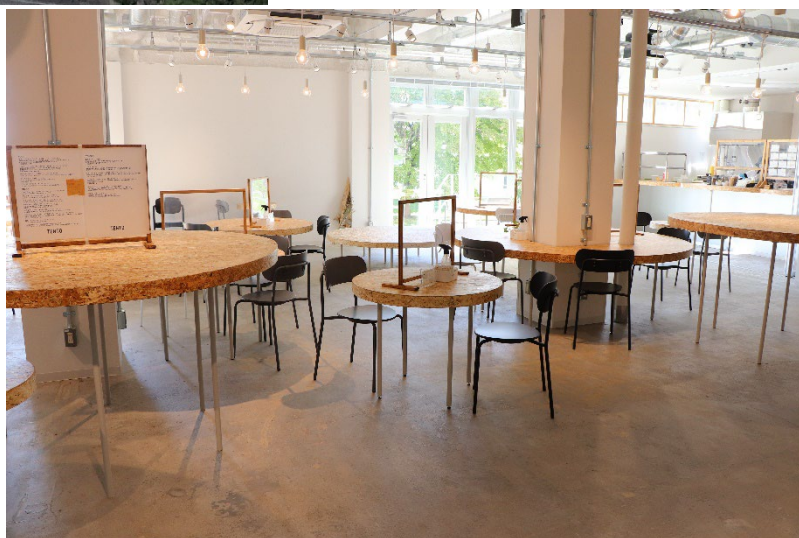


室蘭工業大学長
松田 瑞史

1 大学概要

大学名	国立大学法人室蘭工業大学
所在地	〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号
敷地面積	215,240m ²
延床面積	79,241m ²
沿革	昭和24年5月 室蘭工業大学設立 平成16年4月 国立大学法人室蘭工業大学となる 平成31年4月 工学部を理工学部へ改組

2026年（令和8年）5月1日現在



1 大学概要

室蘭工業大学の理念と目標

—創造的な科学技術で夢をかたちに—

理 念

室蘭工業大学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

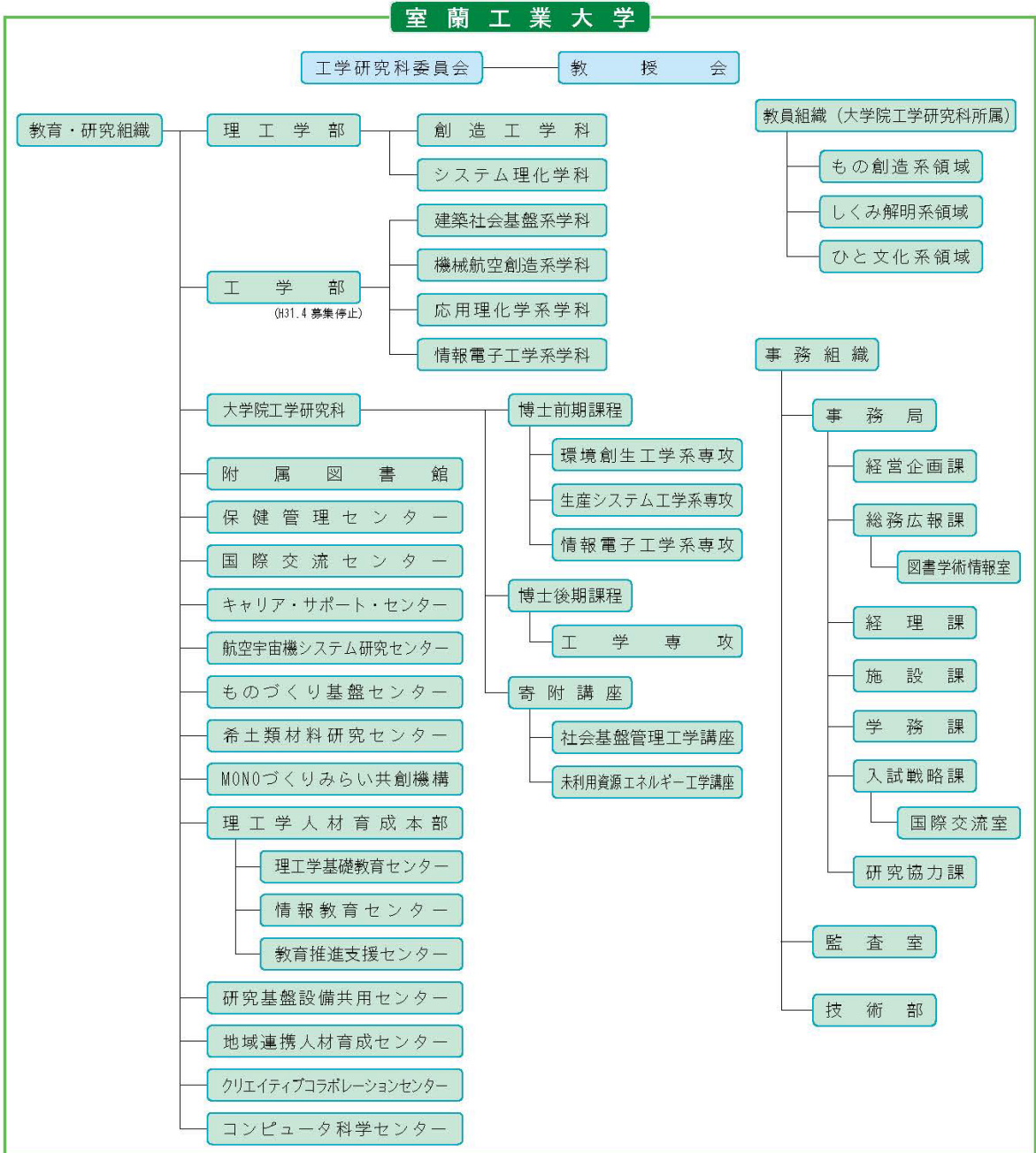
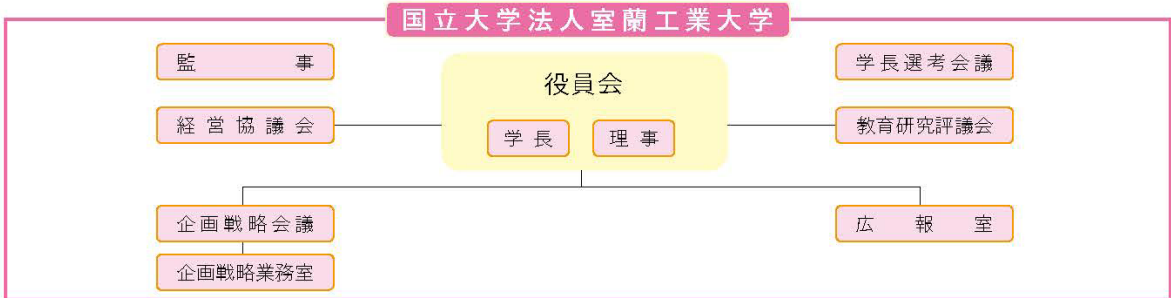
目 標

- 1 室蘭工業大学は、学生一人ひとりの多様な才能を伸ばし、幅広い教養と国際性、深い専門知識と創造性を養う教育を行います。
- 2 室蘭工業大学は、総合的な理工学に基づく教育を展開し、未来をひらく創造的な科学技術者を育成します。
- 3 室蘭工業大学は、真理の探究と創造的な研究活動を推進し、科学技術の発展に貢献します。
- 4 室蘭工業大学は、地球環境を慈しみ、科学技術と人間・社会・自然との調和を考えた研究を展開します。
- 5 室蘭工業大学は、学術研究の成果を地域・国際社会へ還元するとともに、産官学連携を推進し、豊かな社会の発展に貢献します。
- 6 室蘭工業大学は、国際的な共同研究や学術交流を積極的に推進し、世界の発展に貢献します。
- 7 室蘭工業大学は、絶えざる発展を目指し、自主自律と自己責任の精神をもって大学運営にあたります。
- 8 室蘭工業大学は、開かれた大学として情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果たします。

1 大学概要

組織・機構

■ 組織図



1 大学概要

役職員

■ 役職員数

役員現員表

(令和7年5月1日現在)

部 局	区 分	学 長	理事常勤	理事非常勤	監事常勤	監事非常勤	計
学	長	1					1
理	事		3				3
監	事				1	1	2
	計	1	3		1	1	6

部局別現員表

(令和7年5月1日現在)

部 局	区 分	副学長・ センター長等	教 授	准教授	講 師	助 教	小 計	事務職員・ 技術職員等	計
副 学 長		(5)					(5)		(5)
もの創造系領域			31	34	1	10	76		76
しくみ説明系領域			25	22		15	62		62
ひと文化系領域			11	17	1	2	31		31
附属図書館		(1)					(1)		(1)
保健管理センター		(1)		(1)			(2)	1	1 (2)
国際交流センター		(1)		(3)			(4)		(4)
キャリア・サポート・センター		(1)					(1)		(1)
航空宇宙機システム研究センター		(1)	(1)	(1)		(1)	(4)		(4)
ものづくり基盤センター		(1)					(1)		(1)
希土類材料研究センター		(1)	(1)				(2)		(2)
MONOづくりみらい共創機構		(1)	(1)	(1)		(1)	(4)		(4)
理工学人材育成本部		(1)					(1)		(1)
理工学基礎教育センター		(1)					(1)		(1)
教育推進支援センター		(1)					(1)		(1)
情報教育センター		(1)				(2)	(3)		(3)
研究基盤設備共用センター		(1)					(1)		(1)
地域連携人材育成センター		(1)		(1)			(2)		(2)
クリエイティブコラボレーションセンター		(1)					(1)		(1)
コンピュータ科学センター		(1)				(1)	(2)		(2)
技 術 部		(1)					(1)	18	18 (1)
事 務 局								83	83
	計	(22)	67 (3)	73 (7)	2 (0)	27 (5)	169 (37)	102	271 (37)

(注) () は兼務等を示す

特任教員

(令和7年5月1日現在)

区 分	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	計
特 任 教 員	5	2	1	1	9

■ 若手研究者等の採用

(令和6年度)

区 分	資 格	採用者数
ティーチング・アシスタント (TA)	博士前期課程	355
リサーチ・アシスタント (RA)	博士後期課程	9
非 常 勤 研 究 員	P D	3
客 員 教 員	—	15
そ の 他 研 究 員	—	0
計	—	382

1 大学概要

学生の状況

■ 学生定員及び現員

理工学部・工学部

(令和7年5月1日現在)

学部	学 科 / コース		入学定員	編入学定員	総定員	現 員					学科計
						1年次	2年次	3年次	4年次	計	
理工学部	創造工学科	昼間コース	325	25	1,350	345 (51) <11>	363 (52) <8>	360 (58) <10>	437 (44) <16>	1,505 (205) <45>	1,689 (217) <45>
		夜間主コース	40		160	43 (3)	41 (6)	47 (2)	53 (1)	184 (12)	
	システム理化学科	昼間コース	235	15	970	252 (48) <12>	246 (34) <8>	251 (45) <6>	311 (41) <5>	1,060 (168) <31>	1,060 (168) <31>
工学部	建築社会基盤系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	1	1	1
	機械航空創造系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		夜間主コース	—	—	—	—	—	—	—	—	
	応用理化学系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	1	1	1
情報電子工学系学科	昼間コース	—	—	—	—	—	—	—	2 (1)	2 (1)	2 (1)
	夜間主コース	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小 計		昼間コース	560	40	2,320	597 (99) <23>	609 (86) <16>	611 (103) <16>	752 (86) <21>	2,569 (374) <76>	
		夜間主コース	40		160	43 (3)	41 (6)	47 (2)	53 (1)	184 (12)	
合 計			600	40	2,480	640 (102) <23>	650 (92) <16>	658 (105) <16>	805 (87) <21>	2,753 (386) <76>	

(注) () 内の数字は女子で内数・< > 内の数字は留学生で内数

(注) 平成31年4月 学部改組

大学院工学研究科

(令和7年5月1日現在)

専 攻	入学定員	総定員	現 員				
			1年次	2年次	3年次	計	
博士前期課程	環境創生工学系専攻	73	146	82 (17)	69 (19) <2>	—	151 (36) <2>
	生産システム工学系専攻	84	168	68 (7) <1>	64 (3) <5>	—	132 (10) <6>
	情報電子工学系専攻	82	164	82 (6) <8>	115 (9) <11>	—	197 (15) <19>
	小 計	239	478	232 (30) <9>	248 (31) <18>	—	480 (61) <27>
博士後期課程	工 学 専 攻	15	45	24 (4) <14>	23 (8) <14>	31 (10) <17>	78 (22) <45>
	小 計	15	45	24 (4) <14>	23 (8) <14>	31 (10) <17>	78 (22) <45>
合 計		254	523	256 (34) <23>	271 (39) <32>	31 (10) <17>	558 (83) <72>

(注) () 内の数字は女子で内数・< > 内の数字は留学生で内数

1 大学概要

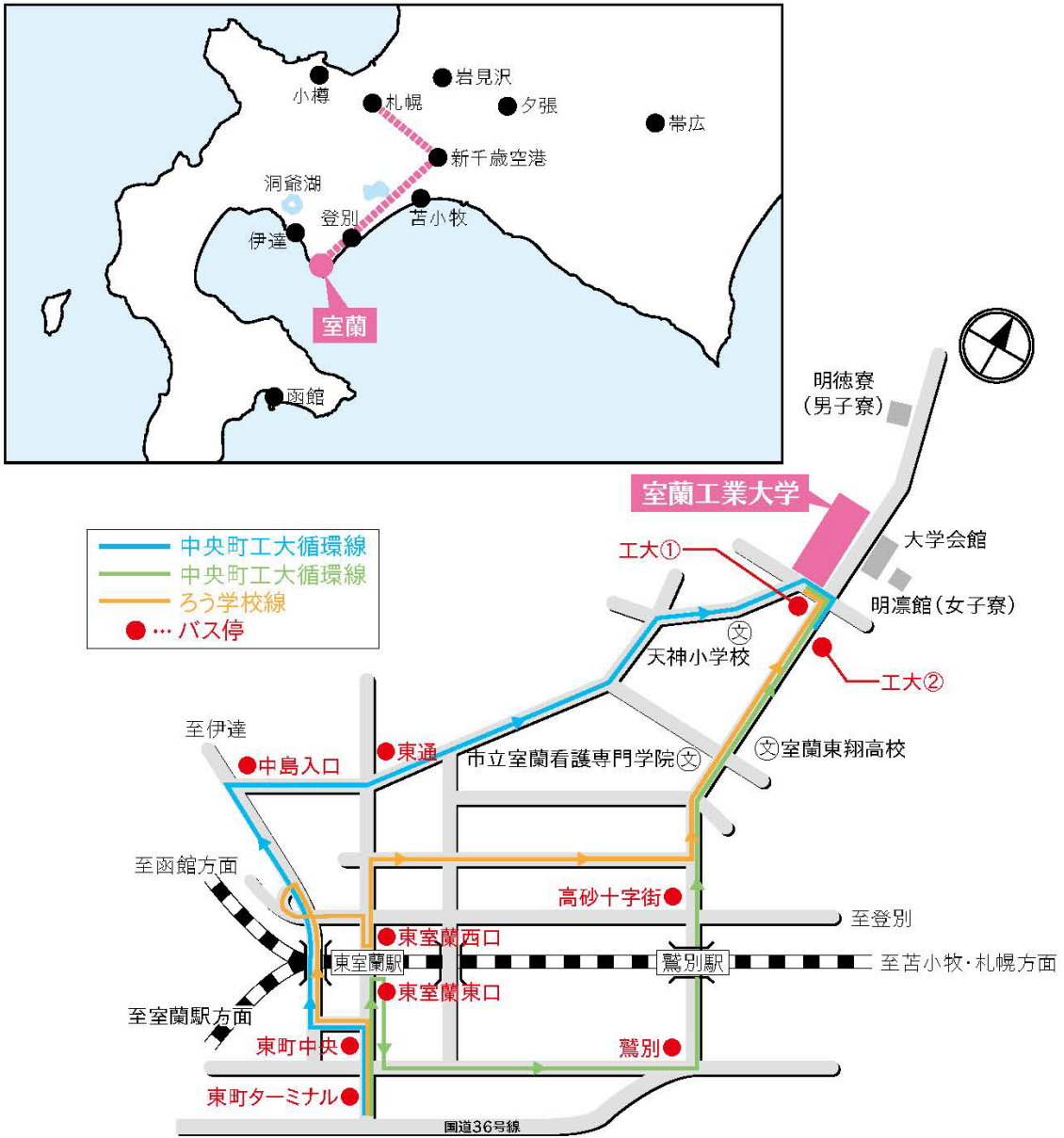
キャンパスマップ

■ キャンパス配置図



1 大学概要

アクセスマップ



アクセス

JR 札幌駅	JR特急列車	JR 東室蘭駅	バス	室蘭工業大学
	約1時間30分		約20分	
新千歳空港	高速バス	JR 東室蘭駅	タクシー	室蘭工業大学
	約1時間50分		約10分	
	JR南千歳駅乗換		約1時間	
	高速バス			
	約1時間30分			

2 環境に関する基本方針

室蘭工業大学は、近くに支笏洞爺国立公園を擁し、ハヤブサが生息する地球岬やカタクリの自生地として知られる室蘭（鷲別）岳など、豊かな自然環境に恵まれた地域に位置します。

本学は「創造的な科学技術で夢をかたちに」という基本理念のもとに、自然を慈しみ、持続可能な循環型社会の構築を目指して、科学技術と人間・社会・自然の調和を追求する創造的な教育研究を行います。

〈方針〉

室蘭工業大学は、地球環境と研究の調和を追求し、学生、教職員、地域住民との協力により、地球環境を守る教育研究活動を推進します。

1. 循環型社会の構築を目指し、技術者倫理教育を積極的に実施し、社会的責任を自覚する人材を養成します。
2. 循環型社会を担う人材を養成するために、環境教育と環境活動を積極的に展開します。
3. 循環型社会の実現を目指し、環境マネジメントシステムの持続的、かつ継続的な改善を図ります。
4. 学生、教職員、並びに地域住民の環境意識を高め、地球環境の保全・改善活動に努めます。
5. 環境保全に関する法律、法規、規則、協定等を順守し、地球環境の維持・改善に努めます。
6. 環境に関する基本方針と環境活動をホームページに公開し、学生、教職員をはじめ、地域住民や地域社会へ公表します。

室蘭工業大学は、環境に関する基本方針を達成するために環境目的・目標を設定し学生、教職員、及び地域住民と協力して環境改善活動を展開し、地球環境の維持・保全・改善に努めます。

3 環境マネジメントシステム

3-1 北海道環境マネジメントシステムスタンダードの継続的認証取得

室蘭工業大学は、平成20年3月19日に、北海道における環境保全活動の取組と経営の安定を支援するためにつくられた環境規格である「北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）」ステップ1の認証を取得、翌年平成21年3月23日にステップ2に移行し（※1）、以後継続して認証を取得し続けています。



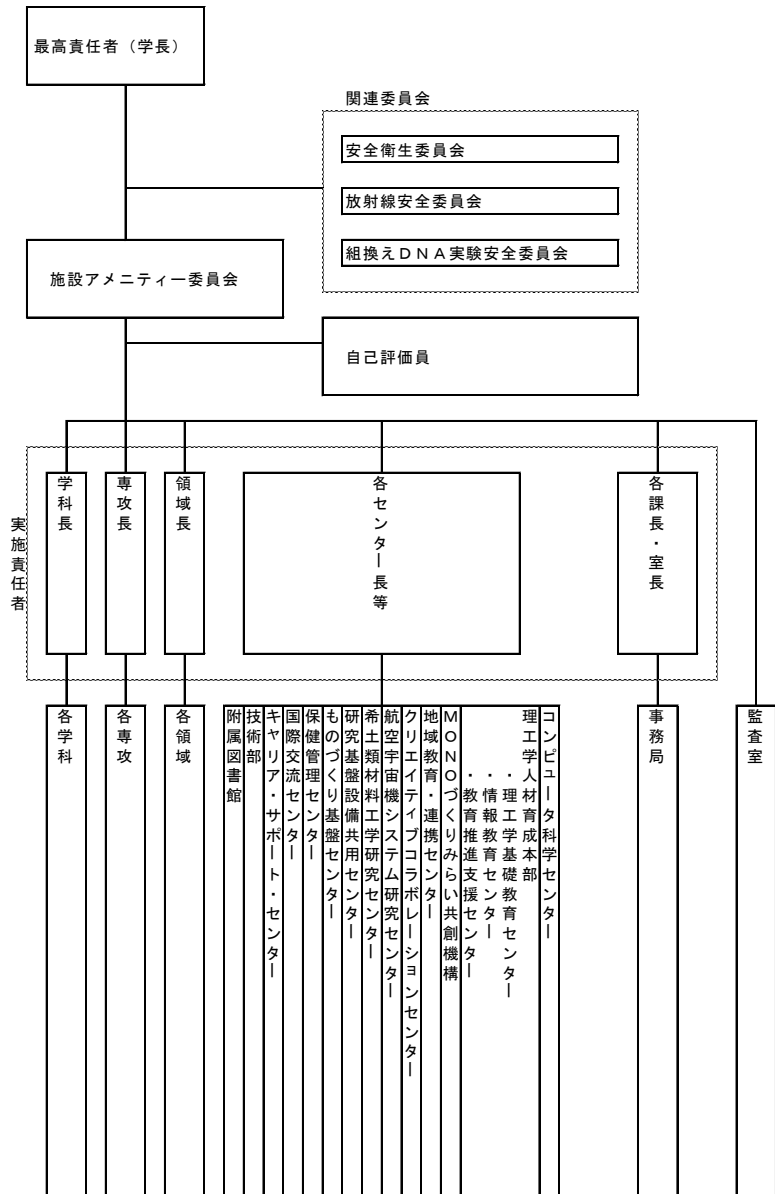
本学ではこの規格に則った環境マネジメントマニュアルを作成し、これを基に環境改善活動を継続しています。

※1
 ステップ1 環境問題についての取組が初めての組織向け。
 ステップ2 何らかの形で環境問題に取り組んでいる、又は将来ISO14001の認証取得を目指す組織向け。



3-2 環境マネジメントシステム体制図

室蘭工業大学では、最高責任者のもと、以下の体制で環境改善活動を行っています。



4 環境配慮実施計画

国立大学法人室蘭工業大学における地球温暖化対策に関する実施方針2024(カーボンニュートラルの実現を目指す実施方針)

室蘭工業大学は、令和6年4月1日に、地球温暖化対策計画（令和3年10月22日閣議決定）に規定する我が国の2030年度の温室ガス削減目標を踏まえ、「国立大学法人室蘭工業大学における地球温暖化対策に関する実施方針2024」を策定しました。

概要は以下のとおりとなります。

● 背景・目的

- ・地球温暖化対策推進法や政府の2050年カーボンニュートラル宣言（2020年）に基づき、室蘭工業大学も温室効果ガス（GHG）の大幅削減に向けた取り組みを実施。
- ・「2030年度までに2013年度比で51%削減」を大学の目標として設定。

● 実施期間

- ・2024年度から2030年度まで。

主な取組内容

1. 再生可能エネルギーの活用

- ・太陽光発電を2030年度までに導入可能な建築物等の50%以上へ設置。
- ・蓄電池・地中熱なども活用。

2. 建築物の省エネ化

- ・新築・改修時にZEB（ゼブ）基準を導入（ZEB Oriented以上を原則）。
- ・照明は2030年度までに100%高効率化。
- ・パッシブデザインや高効率空調機器導入。

3. 物品・サービス調達

- ・電動車への更新（2030年度までに公用車全て電動化）。
- ・電力調達の60%以上を再エネに。
- ・OA機器や冷蔵庫等も省エネ型へ更新。

4. 事務・事業運営での配慮

- ・廃棄物の3R+Renewableの徹底。
- ・食品ロス削減、緑化、イベントの省エネ化。

5. 教職員・学生の意識啓発

- ・研修・講演会・研究推進。
- ・脱炭素ライフスタイルの奨励。

6. 実施体制と見直し

- ・「施設アメニティー委員会」が推進・点検を担当。
- ・必要に応じて方針を見直す。

4 環境配慮実施計画

また、本学では従来より環境配慮実施計画を以下のとおり実行しています。

4-1 エネルギー使用量の削減

- ・省エネ法に基づいてエネルギー管理標準（※1）を制定
- ・省エネルギー型照明設備・空調設備等の導入を推進
- ・照明の適正化（照度、点灯時間の適正管理）を行う
- ・空調の温度設定を適切に行う
- ・本学HPで電力使用量を見える化する（省電力の啓蒙）
- ・省エネパトロールの実施（講義室の照明・空調の適正使用の確認）
- ・既存設備の運用見直し
- ・再生可能エネルギーの導入（太陽光発電設備）
- ・空調設備の適正なメンテナンスを行う

※1 エネルギー使用設備のエネルギー使用合理化のための管理要領（運転管理、計測・記録、保守・点検）を定めた「管理マニュアル」

4-2 水使用量の節減

- ・節水型便器等の導入
- ・トイレの蛇口を自動水栓に更新

4-3 一般・産業廃棄物の管理

- ・一般ゴミの分別の徹底、産業廃棄物に関する教育・管理の徹底
- ・教育研究活動で発生する産業廃棄物を一般廃棄物と分離回収
- ・実験廃液、廃試薬の回収処理
- ・廃棄物の排出量の管理（排出ルールの見直し、排出場所のパトロールを実施）

4-4 紙使用量の削減、リサイクルの推進

- ・会議、打合せ時のペーパーレス化の推進
- ・両面印刷・両面コピーに努める

4-5 HES活動に関連する教育・研究活動の推進

- ・全教職員、全学生向けに定期的に環境関連の講演会を行う
- ・重油地下タンク漏洩を想定した訓練を行う

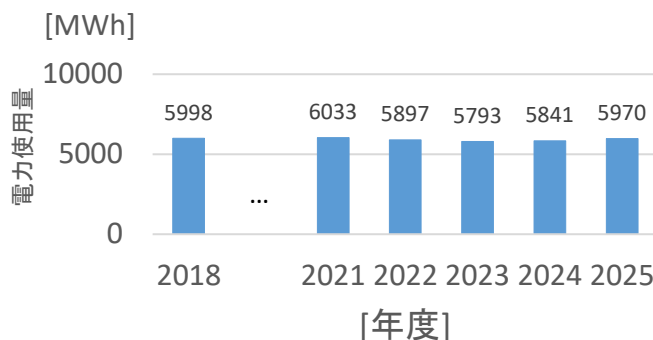
5 環境負荷実績

5-1 エネルギー使用量

本学のエネルギー使用量は電力、ガス、重油、灯油の順で多く、コロナ禍前の2018年と過去5年間に於ける各使用量と総使用量は以下のとおりです。

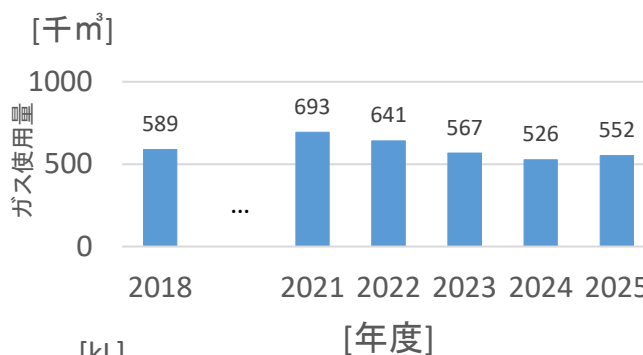
(1) 電力使用量

2025年度の電力使用量は前年度と比較して2.2%の増加となりました。複数の建物で暖房をガス焚き温水からエアコンに転換していることが原因と思われるが、過去5年の推移をみるとほぼ横ばい傾向にあります。



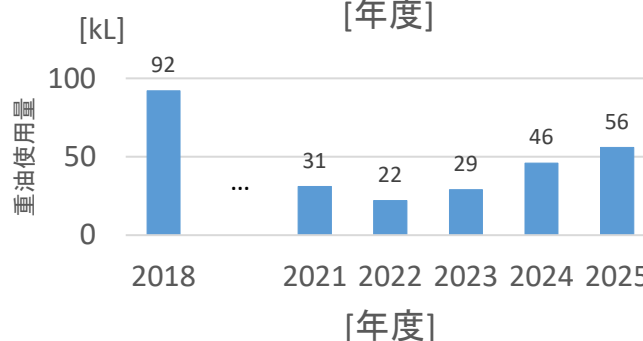
(2) ガス使用量

2025年度のガス使用量は前年度と比較して4.9%の増加となり気象条件による影響が原因と思われるが、過去5年の推移を見ると減少傾向にあります。



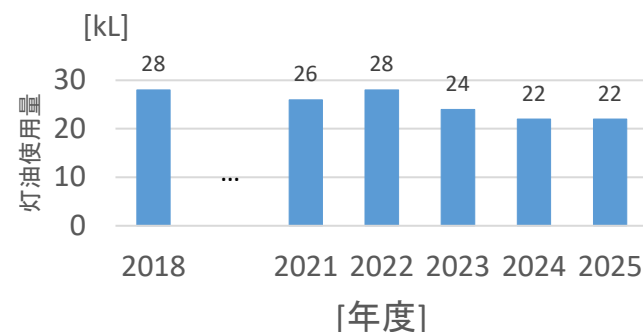
(3) 重油使用量

2025年度の重油使用量は前年度と比較して21.7%の増加となり、電気使用量増に対するピークカット用自家発電機の燃料消費量が多くなったことが考えられ、2022年度を境に増加傾向にあります。



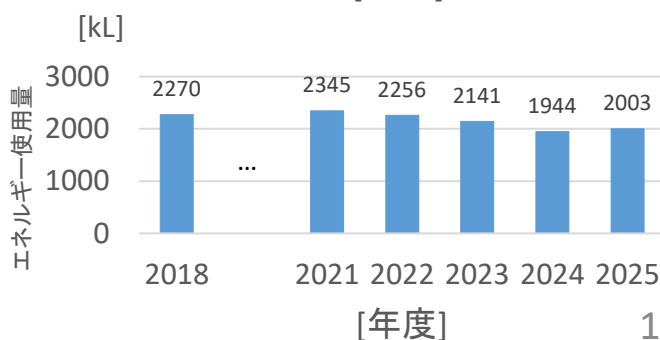
(4) 灯油使用量

2025年度の灯油使用量は前年度と同量となり過去5年の推移をみるとほぼ横ばい傾向にあります。



(5) エネルギー総使用量 (原油換算値)

2025年度のエネルギー使用量(1)から(4)の合計の原油換算値は前年度と比較して3.0%増加しました。理由として、冬季の気温が昨年度と比較して低かったことにより電気、ガスの使用量が増加したことが考えられ、過去5年の推移を見ると2021年をピークに減少傾向にあります。



5 環境負荷実績

本学の年間エネルギー使用量は原油換算（※1）で1,500kLを超えており、「第二種エネルギー管理指定工場」（※2）として国に指定されています。

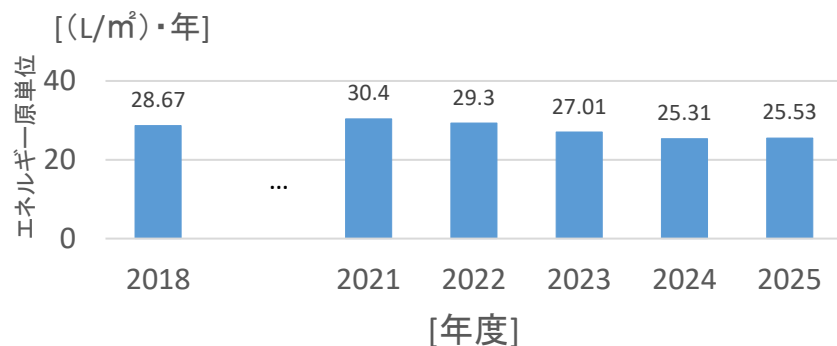
※1 エネルギー使用量（電気・ガス・重油・灯油）に換算係数を乗じて計算した熱量[GJ]を合算した合計使用熱量に原油換算係数0.0258[kL/GJ]を乗じたもの

※2 事業者が設置している工場等（大学では団地）のうち、年間エネルギー使用量の原油換算値が1,500kL以上3,000kL未満の工場等。エネルギー管理員等の選任や国に中長期計画書、定期報告書を毎年提出する義務がある

5-2 エネルギー原単位

エネルギー原単位とは、その年度のエネルギー使用量の原油換算値を校舎の延床面積で割った値となります。

過去5年度間の推移をみると、2025年度は前年度と比較して0.9%増加しました。また、エネルギー管理標準では「5年度間の相乗平均原単位変化（※1）を1%低減させる」となっており、2020～2024年度間では98%（電気需要平準化原単位変化98.1%）で2021～2025年度間は97.6%（電気需要平準化原単位変化97.6%）で1%低減の目標を達成できました。経済産業省で公表している「工場・事業場における省エネ法定期報告に基づく事業者クラス分け評価（※2）の結果」に示すとおり、2024年度実績はS評価となりました。



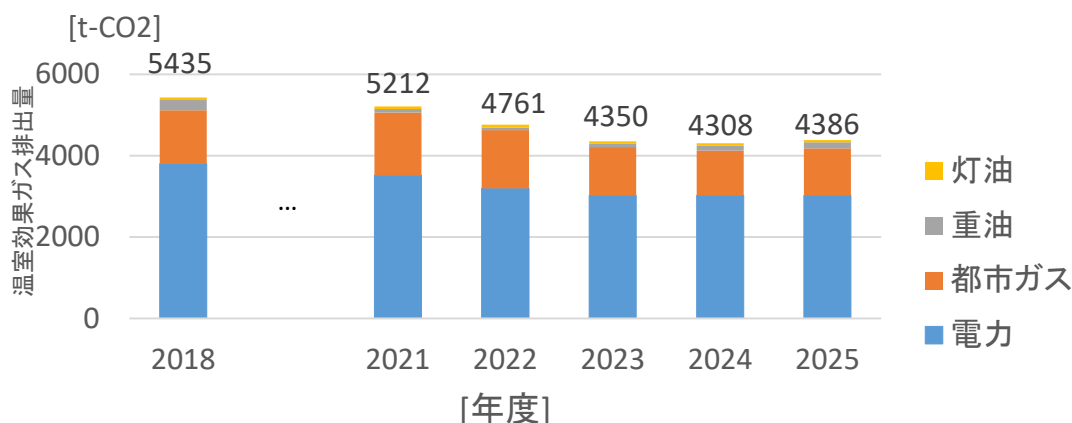
※1 直近過去5年度間のエネルギー消費原単位の対前年度比をそれぞれ乗じた値の4乗根で算出した値

※2 省エネの定期報告書の内容によりS(優良事業者)・A(更なる努力が期待される事業者)・B(停滞事業者)・C(要注意事業者)の4段階にクラス分けして、クラスに応じてメリハリのある対応を実施するもの

5-3 温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は5-1のエネルギー使用量に種類ごとの排出係数をかけた値となります。

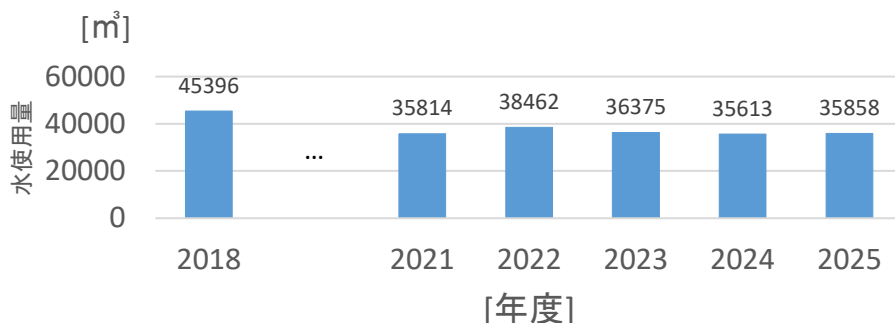
2025年度は、前年度比で1.8%増加しました。主な要因として、冬季の気温が昨年度より低下したことが挙げられます。エネルギー別の温室効果ガス排出量は、電力が0.01%減少した一方、都市ガスは4.7%増加、重油は21.7%増加となりました。なお、灯油については排出量の変化はありませんでした。



5 環境負荷実績

5-4 水使用量

2025年度の水使用量は、前年度より0.7%増加しました。理由として共同利用実験施設、7号館の使用量増加に加え、大学会館系統や改修後の9号館の運用開始による影響が主な要因と考えられます。2021年度から大きな変化はありません。

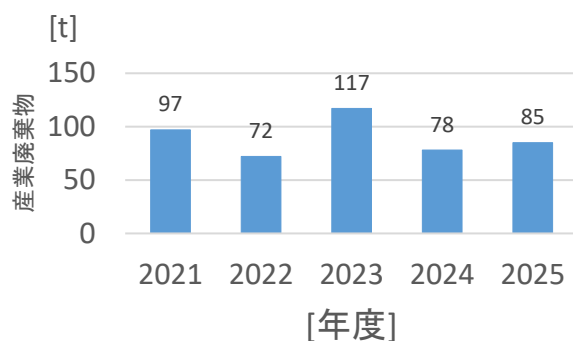
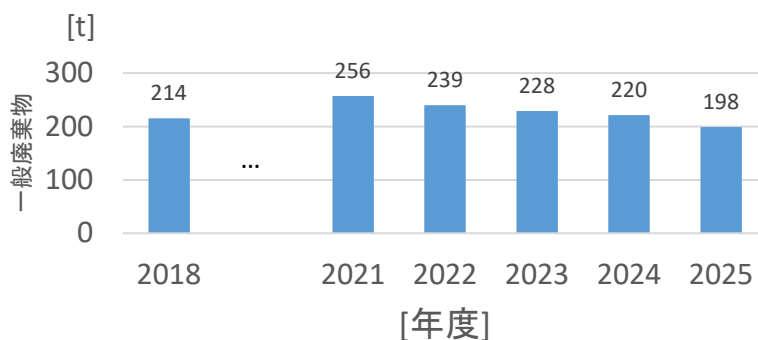


5-5 廃棄物排出量

2025年度の廃棄物排出量は、一般廃棄物が前年度より10%減少しました。産業廃棄物については前年度より9.0%増加しました。

過去5年間の推移をみると、一般廃棄物は2021年をピークに減少傾向にあります。産業廃棄物は2021年度から2025年度は増減を繰り返しています。

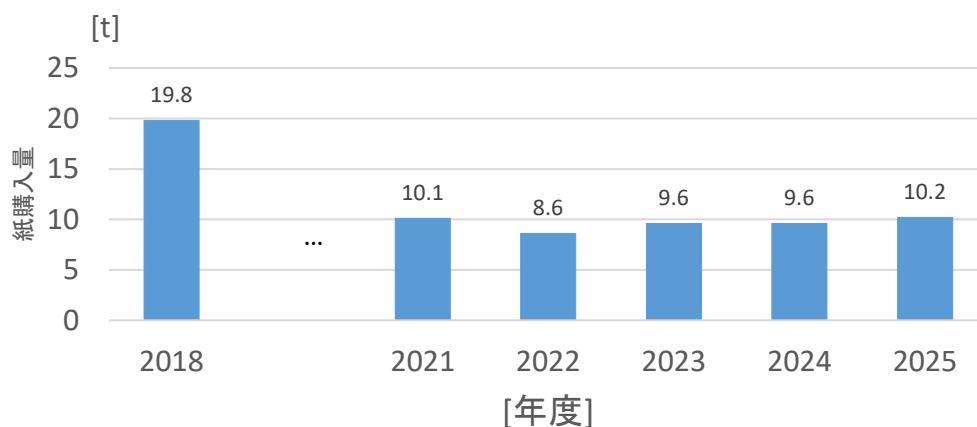
注意：2018年度の産業廃棄物排出量は体積で算出していたため、重量への換算ができませんでした。



5 環境負荷実績

5-6 紙購入量(OA用紙)

2025年度の紙購入量は、前年度より6%増加しました。コロナ禍以降、本学の遠隔授業化によるペーパーレス化の影響で2021年度までに大幅に減少しました。2022年度以降は本学のデジタル・キャンパス推進が始まり、これに伴うペーパーレス化が進行していることから2021年度並みの購入量に抑えられています。



6 環境配慮活動

6-1 HES講演会の実施

室蘭工業大学ではHES活動における教育面の充実の一つとして、全教職員と全学生を対象にした講演会を2026年2月27日（金）に行いました。

今回は「本学におけるHES活動について」をテーマに取り上げ、事務局施設課職員による講演を行いました。

本学が認証取得しているHESの有効的な運用に関する理解を深める内容となりました。

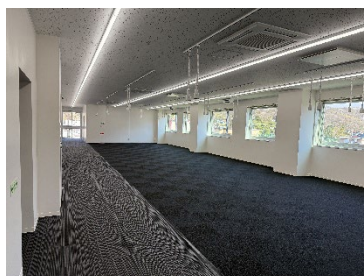
HES講演会実施状況

開催日	講演テーマ	講師	備考
令和4年 3月8日	産業廃棄物の分別排出による環境負荷低減	吉田 英樹 准教授	オンデマンド配信
令和5年 3月10日	学内の廃棄物の分別排出による環境負荷低減	吉田 英樹 准教授	オンデマンド配信
令和6年 3月26日	窓の熱貫流率と省エネについて	栗原 浩平 准教授	対面で開催
令和7年 3月13日	HES活動について	江本 匡 HES主幹審査員	オンデマンド配信
令和8年 2月27日	本学におけるHES活動について	栗尾 員徳 施設課施設係長	オンデマンド配信

6-2 環境に配慮した施設整備の実施

教育・研究9号館改修

室蘭工業大学では教育・研究9号館V棟（面積：3,187㎡）の改修を行い、照明器具をLED照明器具に、冷熱源機器を高効率空調機に、窓ガラスを遮熱効果のあるLow-Eガラスに変更し、環境に配慮した施設整備を実施しました。



パワーセンター改修

室蘭工業大学ではパワーセンター（面積：950㎡）の改修を行い、照明器具をLED照明器具に、冷熱源機器を高効率空調機に変更し、環境に配慮した施設整備を実施しました。



7 地域との連携

室蘭工業大学では、環境改善活動として産学官連携、地域教育（社会学習・教育事業支援、社会人教育）等を行い、地域との連携を推進することで、地域社会の環境改善活動に貢献しています。

7-1 公開講座等の実施について

室蘭工業大学では、地域住民の皆様に学習の機会を提供することを目的として公開講座、サイエンススクール、大学訪問を行っています。また、高校生の皆さんの学習目標や進路選択の一助としていただくことを目的に、本学教員が高等学校へ出向き、理工系大学ならではのテーマで出前講義を実施しています。2025年度（令和7年度）は環境関連の講義を以下の通り開催しました。

令和7年度環境関連公開講座実施状況

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和7年 8月8日	夏休み 理科実験教室 in だて	准教授 馬渡康輝	6	6	伊達市において小学生を対象としたサイエンススクールを開催し、使用済み食用油を活用したエコロウソク作りを実施した。実験を通じて油の固化原理やりサイクルの仕組みを学ぶとともに、環境配慮や資源の有効活用に対する理解を深めた。
令和7年 11月30日	室工大が進めるゼロカーボン への取り組みを体験しよう！	准教授 馬渡康輝 准教授 高瀬舞 助教 下村拓也	参加自由	多数	生涯学習センターきらんにて開催された「むろらんゼロカーボンフェスタ2025」（主催：室蘭市）に本学が出席した。会場では、温度応答型水溶液の実験やCO ₂ 分子模型の変換体験、使用済み食用油を活用したロウソク作りなどを実施し、来場者に資源循環や脱炭素の取り組みを体験的に紹介した。また、室蘭市環境課等と連携したカードゲーム体験や、ゼロカーボンな暮らしをテーマとした講演会も行い、環境問題への理解促進を図った。当日は約1,500名が来場し、幅広い世代に向けた啓発の機会となった。

7 地域との連携

令和7年度環境関連出前講義等実施状況

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和7年 4月15日	脱炭素概論	山中 真也		8	
令和7年 7月15日	半導体材料を用いたクリーン発電	関根 ちひろ		10	
令和7年 7月18日	北海道胆振東部地震から学ぶこと	木幡 行宏		35	
令和7年 7月23日	クリーンエネルギー 材料に出来ること	葛谷 俊博		41	
令和7年 9月17日	建物を支える地面の下	永井 宏		42	
令和7年 10月14日	半導体が支える積雪寒冷地における道路維持管理の研究について	浅田 拓海		57	
令和7年 10月23日	建築物の地震被害と耐震設計の歴史	高瀬 裕也		6	オンラインで開催
令和7年 12月11日	半導体材料を用いたクリーン発電	関根 ちひろ		76	



むろらんゼロカーボンフェスタ出展の様子



お湯と水で発電の様子

7 地域との連携

7-2 環境に関する他団体の委員等

室蘭工業大学に在籍する教職員は、以下の通り環境に関連する他団体の委員等として地域に対して貢献しています。

委員等名	他団体名	氏名
運営部会委員	第19回材料-水素系国際シンポジウム (MH2026) 国内組織委員会	BURAPORNPONG SIREE
理事長	NPO法人ビオトープ・イタンギin室蘭	磯田 広史
室蘭市上下水道審議会委員	室蘭市	永井 真也
環境審議会委員	室蘭市	
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	岸 徳光
室蘭市地方港湾審議会委員	室蘭市	岩崎 慎介
室蘭港カーボンニュートラルポート推進協議会委員	室蘭市	
室蘭市地方港湾審議会委員	室蘭市	
室蘭港の洋上風力総合拠点化の促進に向けた協議会委員	室蘭市	
北海道国土利用計画審議会委員	北海道	
TEC-FORCE アドバイザー	北海道開発局	
令和7年度環境保全対策調査委員会 委員	公益財団法人 廃棄物・3R研究財団	吉田 英樹
オオヌマトンネル技術検討委員会委員	国土交通省北海道開発局 函館開発建設部	
客員研究員	国立研究開発法人国立環境研究所	
函館市新廃棄物処理システム検討委員会委員	函館市	
北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議 委員	北海道	
令和7年度北海道地域環境学習講座 (eco-アカデミア) トレーナー	北海道	高瀬 舞
室蘭市都市計画審議会委員	室蘭市	市村 恒士
中島地区公園整備・管理運営事業に係る事業者選定委員	室蘭市	

7 地域との連携

委員等名	他団体名	氏名
都市計画審議会委員	登別市	小室 雅人
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	
TEC-FORCE アドバイザー	北海道開発局	
一般国道5号創成川通 技術検討会委員	北海道開発局 札幌開発建設部	
室蘭市都市計画審議会委員	室蘭市	真境名 達哉
客員教授	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所	川口 秀樹
北海道地方鉱山保安協議会委員	経済産業省 北海道産業保安監督部	川村 志麻
室蘭市都市計画審議会委員	室蘭市	
中島地区公園整備・管理運営事業に係る事業者選定委員	室蘭市	
令和7年度北海道認定リサイクル製品認定懇談会委員	北海道	
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	
北海道開発局液状化危険度統合マップ作成検討委員会 委員	北海道開発局	
千葉大学環境リモートセンシング研究センター協力研究員	千葉大学	泉 佑太
地域道路経済戦略研究会北海道地方研究会 委員	国土交通省北海道開発局	浅田 拓海
室蘭市道路等維持管理業務検討に伴う基礎調査委託公募型プロポーザル選定委員	室蘭市	
粉じん対策指導委員	厚生労働省北海道労働局	大平 勇一
伊達市都市計画審議会委員	伊達市	谷口 円
技術審査会委員	一般財団法人北海道河川財団	中津川 誠
研究助成審査委員会委員	一般社団法人北海道河川財団	
顧問	株式会社ドーコン	
長流川（壮瞥町）水害タイムライン検討会構成員	胆振総合振興局	
糠平ダム操作に関する技術検討会委員	電源開発株式会社	

7 地域との連携

委員等名	他団体名	氏名
日本陸水学会全第89回大会（札幌）大会実行委員会委員	日本陸水学会第89回大会（札幌）実行委員会	中津川 誠
鶴川・沙流川（二風谷ダム湖を含む）河川水辺の国勢調査アドバイザー	北海道開発局 室蘭開発建設部	
北海道建設部ダム管理用発電導入に関する検討会委員	北海道建設部	
大樹町ゼロカーボン推進協議会アドバイザー	大樹町	内海 政春
環境審議会委員	室蘭市	飯森 俊文
環境経済・経営研究所 招聘研究員	早稲田大学	木元 浩一
循環資源利用促進設備整備費補助事業評価意見聴取会評価委員	北海道	木幡 行宏
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	
TEC-FORCEアドバイザー	北海道開発局	
伊達市地域公共交通活性化協議会委員	伊達市	有村 幹治
千歳市都市計画審議会委員	千歳市	
千歳市地域公共交通活性化協議会路線バス専門委員会委員	千歳市地域公共交通活性化協議会	
壮瞥町地域公共交通確保維持改善協議会委員	壮瞥町	
登別市地域公共交通活性化協議会委員	登別市	
洞爺湖町地域公共交通活性化協議会委員	洞爺湖町	
（仮称）美瑛町地域公共交通活性化協議会オブザーバー	美瑛町	
2050年北海道温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた懇話会の出席	北海道	
地域道路経済戦略研究会北海道地方研究会 委員	北海道開発局	
北海道胆振地域公共交通活性化協議会委員	北海道胆振総合振興局	

8 法令関係、環境規制への対応

8-1 環境関係法令の遵守について

室蘭工業大学では下記の環境に関する法令、規則等を遵守しています。

区 分	法 律
環境配慮活動関連	環境基本法、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
エネルギー関連	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）
温暖化防止関連	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）
化学物質関連	消防法、毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法、じん灰法、高圧ガス保安法
公害防止関連	騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法
建築物関連	建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管法）、水道法、下水道法
廃棄物関連	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施工規則、北海道循環型社会形成の推進に関する条例、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB特措法）、特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
放射性同位元素関連	放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律、国際規制物質の使用等に関する規則
学校関連	学校保健安全法

室蘭工業大学施設課
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号
TEL 0143-46-5072 FAX 0143-46-5083
Mail:sikikaku@muroran-it.ac.jp

